

令和7年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する授業を目指す
～異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる～

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①… 3、4年生の児童のコミュニケーション力が向上したと思う小学校教員の割合(独自：R6 100%)
→GET (3・4年)

②外国語が好きだと答えた3、4年生の割合
(R6:68.2% R5はデータなし)

未だ改善が必要な点

①…授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合は増加しているものの、引き続き改善の余地がある。
(R5:89.6%)

②…6年生において「自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話したり聞いたりすることができる児童の割合(R5:92.3%→
R6:82.6%)

2. 要因分析

①②…R6よりGET(英語に堪能な地域人材)を3・4年の支援に充て、児童が安心して英語でのコミュニケーションを図る素地をつくる環境を整えた。

①…目的や場面、状況等の設定はできているが、児童の資質・能力の育成に資する活動に結びついていない。

②…R5まで授業支援をしていたGETがいなくなり、授業中に英語を使用する場面が減ったこと。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②…引き続き、GETを市内全小学校(山間地区は除く)に配置し、GET(英語に堪能な地域人材)研修会、新任GET訪問指導、ALT研修会を充実させ、「言語活動を通して指導する」を理解させていく。
GET:講義、演習、実践共有(年2回)授業研究会(3授業)を開催し、指導力の向上を図る。
※GETとともに授業を行う教員の研修の機会を充実させる

①①②…引き続き、小学校外国語専科教員を市内全小学校(山間地区は除く)に配置し、専科教員研修(年5回)を充実させる。その中で、「言語活動を通して資質・能力を育成すること」について焦点を当てていく。
(1) 外国語活動、外国語科の授業づくりについての講義、演習を行う。
(2) 授業研究を通して、指導力の向上を図る。(専科教員全員での授業案検討、事後研)
(3) ALTの効果的な活用についての研修を行う。ALTの研修会を充実させて、適切な支援につながるようにする。
(4) 一定の英語力を有する小学校教員を確保するため、英語力に関する専門性を有する者を教員採用選考における加点点措置を行い積極的に採用する。

令和 7 年度 静岡市 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する授業を目指す

～異なる文化を持つ人々と自信を持ってコミュニケーションをとることができ、地元への愛情を持ちながら国際的に活躍できる子どもを育てる～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：55.2％⇒R7：58.0％）

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①…「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定を公表している学校（R5:48.8%）

②…CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語教員の割合が増加（R5:49.3% →R6:51.1%）

未だ改善が必要な点

①…授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合については改善の余地がある。（R5:63.0%）

②…「生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業」を実施した学校の割合が全国に比べ低い。（R5:76.7%）

2. 要因分析

①…静岡市版（教員用・生徒用）としてモデルを示し、それを基に各校で自校化しながら取り組みを進めることで活用が進んだ。

②…英語担当教師の外部検定試験助成を活用する等資格取得の機会の周知や教員の英語力と生徒の英語力の相関に関する周知などにより改善したと考えられる。

①…「言語活動を通した指導」の理解が不十分であり、重要性を再確認することが必要である。

②…「学習者用デジタル教科書」の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①…引き続き、市内全中学校に「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の提出を求めていく。また、活用の実践についての情報交換の場や好事例を紹介し、設定で終わらず公表や達成状況の把握までの活用を促す。

②…引き続き、資格取得の機会や教員と生徒の英語力の相関に関する内容を周知し、さらに「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」の受講斡旋・活用を促す。

①②教員の指導力向上のための研修を充実させる。

（１）教科指導力向上研修【悉皆】「言語活動を通した指導」「学習者用デジタル教科書、ICTの活用」を重点に置いた授業研究会を開催し、指導力の向上を図る。

（２）指導研修【希望研修】講師による講義、演習を通して、「言語活動を通した指導」等の授業づくりのポイントを習得する。

※市内全中学校で月 1 回程度「イングリッシュ・デイ」「イングリッシュ・カフェ」を行い、外国語によるコミュニケーションや外国語に親しむ機会を充実させる。

令和7年度 静岡市 英語教育改善プラン

異文化の人など多様な他者との協働により、広い視野・国際感覚を身に付け、グローバルに活躍する生徒を育てる
○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上58.2%、B1以上25.1% ⇒ R7 : A2以上95%以上、B1以上50%以上)

目標

□ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 □ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 □ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。
(R5:23.2%⇒R6:25.1%)
- ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合が増加した。
(R5:43.5%⇒R6:60.0%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が減少した。
(R5:85.6%⇒R6:58.2%)
- ②スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が減少した。
(R5:34.8%⇒R6:20.0%)

2. 要因分析

- ①定期試験を廃止し、単元テストのこまめな実施により、生徒が計画的に学習をするようになったものと考えられる。
- ②英語のアウトプット活動において、英語の使用場面を生徒が主体的に設定したことで、アウトプット活動への意欲が高まり、活動の質が改善したと考えられる。
- ①外部試験の導入見送りなどにより、「A2レベル相当の英語力を有すると思われる生徒」の客観的な判断が困難になったものと考えられる。
- ②対面によるスピーキングテスト、教師による採点に時間がかかり、機会の増加につながらないものと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①生成AIの活用の推進
生徒が主体的に英語学習を行うため、授業のみならず、家庭学習等においても、積極的にAIアプリ等の生成AIを活用する。(現在、DXハイスクール指定校において、AIの更なる利活用を検証中)
- ②オンライン国際交流の推進
ICTを活用し、国内外の教育連携校とZoomなどで、生徒同士が英語でディスカッションする機会を増やす。
- ①CEFR基準に基づくルーブリック等の導入
「何をすればA2か」を生徒・教員が共有するための基準を作成することに加え、「卒業までにA2以上」を校内目標として全体で共有する。
- ②ICTやツールの活用で省力化
対面でのテストのこだわらない環境づくり
＜スピーキング＞ 生徒が自宅で収録・提出し、教員は後で確認する
＜ライティング＞ 生徒はタイプし提出、教員はオンラインで添削・返却

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

静岡市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	95%	85.6%	95%	58.2%	95%		95%		95%	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50%	23.2%	50%	25.1%	50%		50%		50%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	50%	43.5%	50%	60%	50%		60%		60%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	50%	34.8%	50%	20%	50%		60%		60%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	100%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	50%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	100%	83.3%	100%	84.2%	100%		100%		100%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	95%	26.1%	95%	40%	95%		95%		95%	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50%	56%	57%	55.2%	58%		59%		60%	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	90%	63%	90%		90%		90%		90%	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	85%	80%	85%		85%		85%		85%	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	100%		100%		100%		100%	
		公表（％）	100%	48.8%		100%		100%		100%	
		達成状況の把握（％）	100%	55.8%		100%		100%		100%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50%	49%	50%	51.1%	51%		52%		53%	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	95%	61.4%	90%		90%		90%		90%	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100%	90%		100%		100%		100%	
		公表（％）	70%	59%		70%		70%		70%	
		達成状況の把握（％）	80%	75%		85%		90%		95%	